「実践日本語」におけるビジター・セッションの実施報告

サウクエン・ファン

１．はじめに

2001 年春学期実践日本語は正式に本学留学生別科の正規日本語カリキュラムに取り入れることになった。実践日本語の前身である「Japanese in Context」と同様に、主に IES 東京センターというアメリカの NPO 留学団体を通して入学したアメリカ人大学生を対象に、一学期約 4 ヶ月の総合日本語課程として設置された。

実践日本語の特色としてはコミュニカティブ・アプローチ（communicative approach)を重視するだけでなく、ポスト近代パラダイム（ネウストプニー2000）と言われる新しい日本語教育を試み、学習者が実践できるように、実際使用場面（performance activity,以下「ＰＡ」と略す）をあらかじめコースに取り組み、言語・社会言語・社会文化能力を総括したインターアクション能力の習得を目指す。本稿では実際使用場面の１つであるビジター・セッション（visitor session, 以下「VS」と略す)に注目し、実践日本語コースでの実施状況を報告することにしたい。

２．報告の対象とする資料の収集

本実施報告で使用した資料は下記の 3 つの方法で収集した。

① 内省：　実践日本語のコース開発者である著者があらかじめ作成したコース概要と実施方針を確認する。

② 担当教師へのインタビュー調査：
2004 年 10 月と 11 月に渡って実践日本語コースの担当教師計 6 名にインタビューをした。各インタビューは約 1 時間であった。

③ 学内留学生支援のためのメーリングリスト調査：
ビジターを呼びかける際、学内留学生支援のためのメーリングリスト（ML）で流した知らせをまとめ、整理する。

なお、資料の公開について実践日本語を運営する母体である留学生別科の確認を求めた。

３．「実践日本語」のシラバス・デザイン

毎学期約 50 名の実践日本語の履修者は学期開始時のプレースメント・テストを受け、5 つのレベルに配属される。実践日本語は 90 分の授業を毎週 4 回行う約 13 週間の短期日本語コースである。学生数は大学の教育方針に沿って、1 クラスは原則として 15 名以内の少人数制となっている。

インターアクション教育を目指す実践日本語は、ネウストプニーらの主張する言語管理理論（Neustupny 1985、 ネウストプニー 1995b）を柱とし、言語問題を「訂正過程」として見なし、「解釈」、「練習」、「実際使用」といった一連のプロセスによって実現されることを教育理念の中心とする（ネウストプニー1995a、横須賀 2003)。この教育理念をもとに、

特定の教科書にこだわるのではなく、教授者があらかじめ教育目標を学習段階ごとに設定し、あるまとまりのできるトピックを洗い出し、教室で十分に学習者に練習・理解させたあと、そのトピックにふさわしいＰＡをデザインして、実施する。言うまでもなく、学習者はトピックの最後に日本人との実際使用場面に臨むことになるので、コースでは日本語そのものだけでなく、タスクを達成するために、関連する社会言語・社会文化の知識も当然要求される。ＰＡの形態については、ゲストを教室に招く VS 以外に、学習者が日本人のコミュニティに出向いて行う家庭訪問、会社訪問、路上調査などもある。ここでは初心者向けの実践１の例をもとに、典型的な実践日本語の授業活動の流れを図で表す。

表１：　実践日本語における教室活動の流れ

	1 トピックは 2−3 週間にわたって平均約 8 コマを使用する
解釈 ↓ 練習 ↓ 実際使用 ↓ フォローアップ	① 該当トピック関連の社会文化知識の説明 ↓ ② 該当トピック関連の文法・語彙の説明、タスクによる練習 ↓ ③ 週末を利用するインターアクション課題 （インタビュー、調査、ジャーナル作成など） ↓ ④ 文法の復習、聴解練習 ↓ ⑤ クイズ ↓ ⑥ ＰＡの準備 ↓ ⑦ クラス・ビジターによるＰＡ（＝VS）の実施 ↓ ⑧ ＰＡのフォローアップ（自己評価、レポート作成など） ↓ ⑨ 語彙・漢字の復習 ↓ ⑩ 読解タスク

４．「実践日本語」の運営体制

実践日本語はほかの別科コースと同じように一名のコーディネーターが設置され、関係者との調整や、シラバスの統括の窓口となる。2003 年度より次の 5 クラス体制になり、毎学期平均約 40 から 50 名の履修者をコース開始前に行われるプレースメント・テストの結果に基づいてクラス分けする。

レベル１：　日本語学習歴のない学生からアメリカのカレッジ・レベルの学習歴 1 年未満の学生、または同等の日本語能力を持つ学生を対象。

レベル 1.5 ：カレッジ・レベルの日本語学習歴半年から 1 年の学生、または同等の

日本語能力を持つ学生を対象。

レベル２ ： カレッジ・レベルの日本語学習歴 1 年の学生、または同等の日本語能力を持つ学生を対象。

レベル３ ： カレッジ・レベルの日本語学習歴 2 年の学生、または同等の日本語能力を持つ学生を対象。

レベル４ ： カレッジ・レベルの日本語学習歴 3 年以上の学生、または同等の日本語能力を持つ学生を対象。

各クラスの担当者はシラバスの作成から、実施、クラス運営、評価までを行う。2004 年度秋学期の担当者は次の通りである。

レベル１： 菊池民子

レベル 1.5 ： 村上律子

レベル２ ： 松本順子

レベル３ ： クラス１：筒井昭博、クラス２：上原由美子[1]

レベル４ ： 細井和代

５．ＶＳ実施にあたっての留意点

実際使用場面としての VS を、設定した教育目標を達成できるようなものとするためには画期的なデザインが不可欠になる。実践日本語の場合、特に次の点について工夫した。

タイミングと所用時間

VS はほかの実際使用場面と同じように訂正プロセスの最終段階に位置づけられ、必要な社会文化・社会言語関連の知識の説明（「解釈」）、語彙、文法のドリル（「練習」）のあとに行われる。VS の所用時間は基本的に通常の授業時間と同様に１コマの 90 分とし、協力してくれるビジターを募集する。ビジターを確保するために、同じ時間帯に複数の VS を行わないようにコースのコーディネーターが事前に各担当教師と調整しておく。

実施の場所

VS のタスクによってコンピューター室や、学生ラウンジやキャンパス外で行うこともあるが、基本的に通常の教室で行う。キャンパス外で行う場合、必ず参加者全員（留学生、ビジターと引率教師）の保険がかかるようにあらかじめ大学の学生課に学外活動届を出しておく。

ビジターの募集

本報告書の第 I 部で紹介したように、ビジター・セッションの一般学生参加者に募集は基本的にメーリングリスト（ML）で行われる。ML の登録者が募集の知らせを読んで担当教員に連絡する形で自由参加が可能になっている。募集の際、教師があらかじめＶＳを行う

---

[1] 2004 年度秋学期のレベル３は履修者数 15 人超過したため、2 クラスに分割した。シラバスは基本的にクラス１の担当者が作成したものを通用する。

時間と場所、学習者の所属クラス、ＶＳのトピックとビジターへの依頼を連絡する。

ビジターへの依頼

トピックによるが、ビジターへの依頼はおおよそ次の 3 種類に分けることができる。

① 会話の相手になってもらう：
　　留学生と共同作業をするなど。

② 観客になってもらう：
　　留学生の用意したスピーチやビデオ、劇を見て、コメントするなど。

③ 調査の対象になってもらう：
　　留学生の用意したアンケートやインタビューに答えるなど。

フォローアップ

ＶＳ直後、教師がビジターにお礼のメールを出し、フィードバックを求めることが多い。特にＰＡの評価に反映することはないが、ＶＳの際学習者の日本語使用や、コミュニケーション問題の解決法や、全体の印象についてビジターに述べてもらう。

使用言語

ＶＳは日本語授業の一環として行われるので、使用言語は原則として日本語とする。すでにネウストプニーが指摘したように、「ビジターは本当に自分たちと話したいと思って会いに来た」という「実際性」（ネウストプニー1995a）を学習者に実感させることができればより学習効果があるようだ。一方、VS で学習者に真のインターアクションを体験してもらうのは本来の目的なので、初心者クラスでは無理にすべて日本語でコミュニケーションを行ってもらうよりも、適宜英語やほかの共通言語を補助的に使用することで学習者の動機付けと達成感につながるのではないかと思われる。

６．実施状況

ここからは 2004 秋学期実践日本語コースで実施された VS をレベル別にまとめてみたいと思う。

６．１　実践日本語レベル１での実際使用場面

実践 1 では、「外食」、「わからないものや言葉」、「旅行」、「教室での活動」、「日本の昔話」の 5 つのトピックで授業が展開された。すべてのトピックの最終段階にある PA は日本人ビジターを招き、ＶＳの形で行われた。

（１）　トピック１：外食

①　使用授業数：	全 7 回
②　ＰＡのテーマ：	「お薦め料理のあるレストランを開く」
③　実施日：	9 月 24 日
④　実施場所：	キャンパス内
⑤　PA の種類：	VS

⑥　留学生のタスク：　メニュー、看板を作り、ウエイター・ウエイトレスや会計として接客する。日本人ビジターの開くレストランで飲食する。

⑦　ビジターへの依頼：　レストランの客、ウエイター、ウエイトレスなどの役をして留学生と会話する。

（２）　トピック 2：わからないものや言葉

①　使用授業数：　全 9 回

②　ＰＡのテーマ：　「標識辞書を作る」

③　実施日：　10 月 14 日

④　実施場所：　キャンパス内から教室へ

⑤　PA の種類：　VS

⑥　留学生のタスク：　グループで学内にある標識の辞書を作る。

⑦　ビジターへの依頼：　留学生の作った標識辞書の語句の読み方、意味、例文（日本語）を教える。

（３）　トピック 3：旅行

①　使用授業数：　全 9 回

②　ＰＡのテーマ：　「旅行に関するスピーチ」

③　実施日：　11 月 5 日

④　実施場所：　教室内

⑤　PA の種類：　VS

⑥　留学生のタスク：　最近の旅行についてスピーチをする。

⑦ビジターへの依頼：　留学生のスピーチを聞いて簡単な質問（モデル質問あり）をする。

（４）　トピック 4：教室での活動

①　使用授業数：　全 8 回

②　ＰＡのテーマ：　「日本人に折り紙の作り方を説明する」

③　実施日：　11 月 19 日

④　実施場所：　教室内

⑤　PA の種類：　VS

⑥　留学生のタスク：　ビジターに日本語で折り紙を教える。

⑦　ビジターへの依頼：　留学生の説明を聞いて、それについて確認したり質問をしたりする。

（５）　トピック 5：日本の昔話

①　使用授業数：　全 7 回

②　ＰＡのテーマ：　「劇｛十二支の話｝を演じる」

③　実施日：　12 月 7 日

④　実施場所：　教室内

⑤　PA の種類：　VS

⑥　留学生のタスク：　コース終了に向けて、これまでに勉強したことの成果を

日本語劇で発表する。題は「十二支の話」とし、独自の脚本を作って演じる。

⑦　ビジターへの依頼：　基本的に劇の観客になる。観劇だが、最後に元気をつけるようにフィードバックもお願いする。

６．２　実践日本語レベル 1.5 での実際使用場面

実践 1.5 のトピックは「休日」、「買い物」、「携帯電話」、「旅行」、「私の将来」の 5 つである。各トピックの最後に行われたＶＳは次の通りである。

（1）　トピック１：休日

①　使用授業数：　全 8 回
②　ＰＡのテーマ：　「神田外語の学生の休日」
③　実施日：　9 月 27 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　休日の過ごし方について学内で学生にインタビューして結果を集計して発表する。
⑦　ビジターへの依頼：　留学生のインタビューを受けるペアワーク。

（2）　トピック 2：買い物

①　使用授業数：　全 8 回
②　ＰＡのテーマ：　「留学生の店」
③　実施日：　10 月 12 日
④　実施場所：　コンピュータールーム内
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　商品情報をカタログで調べて、店員となり、ビジターを相手に商品を売る。
⑦　ビジターへの依頼：　客として留学生の店で買い物をする。カタログを見ながら携帯電話や車などを、値切って買う。

（3）　トピック 3：携帯電話

①　使用授業数：　全 9 回
②　ＰＡのテーマ：　「待ち合わせ」
③　実施日：　11 月 4 日
④　実施場所：　キャンパス外から教室へ
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　日本人ビジターと電話で待ち合わせをして、会って話す。教室に連れて来て、その人の紹介をする。
⑦　ビジターへの依頼：　留学生と携帯電話で待ち合わせをして会う。場所は海浜幕張駅、幕張駅、イトーヨーカドー、テクノガーデンなどと設定し、電話を待ち、留学生とどこかで待ち合わせて、一緒に教室まで来る。

（4）　トピック 4：旅行

①　使用授業数：　全 9 回
②　ＰＡのテーマ：　「神田観光」
③　実施日：　11 月 19 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　カタログを見て旅行プランを作り、ビジターの旅行代理店で相談する。
⑦　ビジターへの依頼：　旅行代理店の店員になって、留学生とペアワークをする。

（5）　トピック 5：私の将来

①　使用授業数：　全 6 回
②　ＰＡのテーマ：　「スピーチ大会：私の留学生活」
③　実施日：　12 月 6 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　自身の将来の計画や展望をスピーチにまとめて、コンテスト形式で発表する。
⑦　ビジターへの依頼：　スピーチコンテストの審査員になって評価する。

６．３　実践日本語レベル２での実際使用場面

実践 2 の授業は「私の好きな場所」、「悩み相談」、「日米大学生の意識調査」、「日本の思い出」の 4 つのトピックでまとめられた。「日米大学生の意識調査」の PA はキャンパス内日本人学生をインタビューする形を取り、ほかの 3 つのトピックの PA はビジターを招く VS であった。

（1）　トピック 1：私の好きな場所

①　使用授業数：　全 8 回
②　ＰＡのテーマ：　「私の好きな場所」
③　実施日：　9 月 27 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　留学生が「私の好きな場所」と題して、ビジュアルエイドを使用してビジターの前でプレゼンテーションを行う。
⑦　ビジターへの依頼：　「春休みの旅行先を探している大学生」になる。留学生の発表が終わった後質疑応答のほか、ビジター全員で協議し「一番行きたい場所」を選定する。

（2）　トピック 2：悩み相談

①　使用授業数：　全 8 回
②　ＰＡのテーマ：　「悩み相談」
③　実施日：　10 月 14 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　VS

⑥　留学生のタスク：　ビジターの悩みを聞き、アドバイスする。
⑦　ビジターへの依頼：　１対１での会話相手になる。留学生がビジターの悩みを聞き、アドバイスするので、事前に何か「悩み」を用意する。もちろんフィクションでも OK。悩みが解決したら、自由会話に移る。

（３）　トピック３：日米大学生の意識調査
①　使用授業数：　全 14 回
②　ＰＡのテーマ：　「日米大学生の意識調査」
③　実施日：　11 月 8 日
④　実施場所：　学内の様々な場所でインタビュー
⑤　PA の種類：　プロジェクト
⑥　留学生のタスク：　大学生活に関するテーマを決めて学内でインタビューする。その後結果をまとめ考察し、レポートにする。
⑦　ビジターへの依頼：　なし

（４）　トピック４：日本の思い出
①　使用授業数：　全 9 回
②　ＰＡのテーマ：　「日本の思い出」
③　実施日：　12 月 6 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　課題を折り込んだスピーチを作成する。学生がお世話になった人／友達を招待する。
⑦　ビジターへの依頼：　スピーチの内容について質疑応答、その後小グループに分かれて（共有している）日本の思い出について語り合う。

６．４　実践日本語レベル３での実際使用場面

実践 3 では「商品開発」、「日本人の人生観」、「家庭と家庭教育」、「日本人の個人史」の 4 つのトピックで授業を行った。すべてのＰＡはビジターによる VS であった。

（１）　トピック１：商品開発
①　使用授業数：　全 9 回
②　ＰＡのテーマ：　「アイディア商品発表会」
③　実施日：　9 月 30 日
④　実施場所：　プレゼンテーション・ルール
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　日本経済を活性化すべく、留学生たちが斬新なアイディア商品を発表する。
⑦　ビジターへの依頼：　留学生の発表を聞いて発表コンテストの審査員になる。

（２）　トピック 2：日本人の人生観
①　使用授業数：　全 11 回

② ＰＡのテーマ：　「日本人の人生観」
③ 実施日：　10 月 21 日
④ 実施場所：　教室内
⑤ PA の種類：　VS
⑥ 留学生のタスク：　「日本人の人生観」というテーマで、就職、進学、結婚、生きがいなどについて日本の若者の意識調査をすべく、ビジターにインタビューする。
⑦ ビジターへの依頼：　留学生の調査を受ける。留学生に対して質問をする。

（３） トピック 3：家庭と家庭教育
① 使用授業数：　全 11 回
② ＰＡのテーマ：　「家族と家庭教育発表会」
③ 実施日：　11 月 15 日
④ 実施場所：　教室内
⑤ PA の種類：　VS
⑥ 留学生のタスク：　家庭、幼稚園、小学校での子どものしつけや教育についてビジターにインタビューする。
⑦ ビジターへの依頼：　小グループで留学生と語り合う。自分の体験や意見、疑問などを自由に話す。

（４） トピック 4：日本人の個人史
① 使用授業数：　全 9 回
② ＰＡのテーマ：　「日本人の個人史」
③ 実施日：　12 月 7 日
④ 実施場所：　教室内
⑤ PA の種類：　VS、お年寄りのビジター
⑥ 留学生のタスク：　「日本人の個人史」というテーマでビジターと 1 対 1 で話し、テーマを共有する。
⑦ ビジターへの依頼：　自分たちの半生について留学生たちと話し合う。

６．５　実践日本語レベル 4 での実際使用場面

実践 4 の授業は「情報提供のスピーチ」、「川柳＆俳句」、「環境問題を考える」、「メディアと私たち」、「ビデオ作成」の 5 つのトピックで展開された。

（１） トピック１：情報提供のスピーチ
① 使用授業数：　全 11 回
② ＰＡのテーマ：　「情報提供のスピーチ」
③ 実施日：　10 月 5 日
④ 実施場所：　プレゼンテーション・ルーム
⑤ PA の種類：　VS
⑥ 留学生のタスク：　自分の興味のあることについて日本語で情報提供する（アメリカの大学の学生 TV 局、菜食主義、韓国の民話・文化、環境を破壊する恐ろしい動物、アメリカの大学のボートチーム、TV ゲーム、森万里子という芸術家　SMAP

など）。

⑦　ビジターへの依頼：　留学生のスピーチを聞いて質問や意見交換をする。スピーチ・質疑応答後、グループでの自由会話の時間に移る。

（２）　トピック２：川柳＆俳句

①　使用授業数：　全５回
②　ＰＡのテーマ：　「川柳互選会」
③　実施日：　10 月 15 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　VS、学外社会人ビジター（地域の川柳会会員）
⑥　留学生のタスク：　事前に川柳を２句作る。出席者全員の川柳を互選・鑑賞する（よいと思った川柳についてなぜよいと思ったか説明する。自作の川柳について作ったときの状況や気持ちを説明する）。
⑦　ビジターへの依頼：　事前に自作の川柳を２句 FAX で送る。出席者全員の川柳を互選・鑑賞する（よいと思った川柳についてなぜよいと思ったか説明する。自作の川柳について作ったときの状況や気持ちを説明する）。

（３）　トピック３：環境問題を考える

①　使用授業数：　全 11 回
②　ＰＡのテーマ：　「ゴミ処理施設訪問に基づいてレポート発表会」
③　実施日：　11 月 11 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　ゴミ処理施設訪問に基づいてレポートを書き、その内容を要約して口頭発表をする（テーマによるグループ別）。
⑦　ビジターへの依頼：　留学生のレポートを読み、発表を聞いて質問、コメント、ディスカッションをする。

（４）　トピック４：メディアと私たち

①　使用授業数：　全８回
②　ＰＡのテーマ：　「レポート報告とビデオ作成の企画会議」
③　実施日：　11 月 30 日
④　実施場所：　教室内
⑤　PA の種類：　クラス内活動（ビジターなし）
⑥　留学生のタスク：　メディアリテラシーを踏まえて、トピック３のレポートの内容をビデオ作品にするための話し合いをする。
⑦　ビジターへの依頼：　なし

（５）　トピック５：ビデオ作成

①　使用授業数：　全８回
②　ＰＡのテーマ：　「ビデオ上映会」

③　実施日：　12 月 17 日
④　実施場所：　プレゼンテーション・ルーム
⑤　PA の種類：　VS
⑥　留学生のタスク：　「環境」をテーマにしたビデオ作品を制作する。ビデオの内容：　ドラマ＋ＣＭ＋ディスカッション
⑦　ビジターへの依頼：　留学生が作成したビデオの上映会に参加し、ビデオを見て質問や意見交換をする。

７．まとめ

以上、実践日本語という短期日本語コースの各レベルにおいて実際に実施されたビジター・セッション（VS）のトピックと内容について報告した。実際使用場面(PA)としての VS の実態を把握するために、留学生とビジターとのインターアクションをはじめ、VS のデザインと日本語教育目標の設定との関係や、VS への評価法も大切な側面なので、別の実施報告でまとめたいと思う。

参考文献

Neustupny, J. V. (1985) “Problems in Australia-Japanese contact situations” In Pride, J. (ed.) *Cross-cultural Encounters*. Melbourne: River Seine, pp. 44-64.

ネウストプニー, J. V. (1995a)『新しい日本語教育のために』大修館書店。

ネウストプニー, J. V. (1995b)「日本語教育と言語管理」『阪大日本語研究』７、67-82 頁。

ネウストプニー, J. V. (2000)『今日と明日の日本語教育―２１世紀のあけぼのに』アルク。

横須賀柳子（2003）「ビジターセッション活動の意義とデザイン」宮崎里司／ヘレン・ マリオット［編]『接触場面と日本語教育―ネウストプニーのインパクト』明治書院、335-352 頁。